

失敗した経験を積み重ねることが、  
その後の自分を救ってくれる



株式会社オリイ研究所 所長  
吉藤オリイさん

よしふじ・おりい ●株式会社オリイ研究所代表取締役所長。高校時代に電動車椅子の新機構の発明に関わり、2004年の高校生科学技術チャレンジ (JSEC) で文部科学大臣賞、世界最大級の科学コンテストISEFにてGrand Award 3rdを受賞。開発した分身ロボット「OriiHime」が、寝たきりの障がいがある人などの分身としてカフェで活躍中。

## 研

研究者としての私のキーワードは「1日1回失敗すること。失敗しないのは新しい挑戦をしていないことだと思うからです。」

失敗っていいなと私が初めて感じたのは、不登校だった中学1年時に、母が申し込んだ虫型ロボット競技大会に参加したときです。不登校かつ勉強も苦手だった私は、頭の良さではほかの参加者には到底かなわないと考えました。みんな別室で一生懸命プログラムを考えていましたが、実践せずに頭の中でプログラムを考えることでは勝てないと思ったのです。だから別室には行かずに練習用コースに留まって、1行プログラムを書いたら実際に走らせてみる。失敗してひっかかったところがわかったら、また1行書き換えて走らせる、ということを繰り返した結果、なんと優勝。頭の中で完璧なプログラムを目指したばかりの子たちは、誰もゴールできなかったのです。そのときに、失敗を繰り返したとしても手数を増やすやり方が自分に合っていると気づきました。

これは勉強も同じで、最初は解けなかった問題も反復することで記憶に残ります。何度か間違えた問題なら、いざテストに出ても慌てませんよね。予め失敗しておいた経験が後から自分を救うことが本場に多いと思います。

失敗とは行動してみた結果なので、いろんなことをやって失敗経験を積み重ねていくと、自分の特性もわかってきます。失敗は痛みをとまいませんが、10

代は自分を旅だと思っのです。

私自身が自我を本当の意味で意識したのは中2のとき。これもきっかけはロボットコンテストでした。すごくがんばって全国で2位に。達成感と、これだけやったのに1位になれなかったという強烈な悔しさを同時に感じました。そのときに、「自分を強く感じて、プレイヤードとして生きている自分を、司令塔の自分が俯瞰して見ているようにメタ認知できるようになつたんです。すると、少しいじめられても「これは大したことではない」と客観視できるようになりメンタルが安定してきた。不登校から脱却できたのも俯瞰的視点をもてたからです。」

俯瞰的視点とともに、私の人生を安定させてくれたもう一つの要素が、17歳のときに、残りの人生は孤独の解消のために捧げると目標を決めたこと。自分で決めたことによつていろんな迷いを断つたので、生きやすくなりました。

人はみんな違いますから、誰もが自分で決断できるわけではありません。誰かに方向性を示してもらおう方が、安心して一歩を踏み出せる人もいます。どんなきっかけでも行動することで成長の瞬間はありますよね。「大丈夫、失敗しても先生がいるから」と学校がセーフティネットになってあげること、挑戦できるようになる生徒もいると思うのです。人生はよき出会いによつて創られます。先生方には、それを見つめる応援者になつてあげてほしいと思います。